

令和２年度 第１回 県立病院を良くする会 次第

日 時 令和２年１１月９日（月）
午後３時から
場 所 徳島県庁 １０階
特別大会議室

１ 開 会

２ 議 事

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) 徳島県病院事業経営計画の取組状況について
- (3) 各県立病院の取組状況について
 - ・ 中央病院
 - ・ 三好病院
 - ・ 海部病院
- (4) 次期病院事業経営計画（素案）について
- (5) 意見交換

３ 閉 会

【配付資料】

- ・ 資料１ 徳島県病院事業経営計画の取組状況
- ・ 資料２ 徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について
- ・ 資料３ 各県立病院の取組状況について
- ・ 資料４ 徳島県病院事業経営計画（第２期・素案）概要版
- ・ 資料５ 徳島県病院事業経営計画（第２期・素案）
- ・ 資料６ 徳島県病院事業経営計画（第２期）の策定スケジュール

徳島県病院事業 経営計画の取組状況

令和2年11月9日
県立病院を良くする会資料

1 「グループ力の強化」に向けた取組

広域的な救急医療提供体制の整備 (資料2 p2, 7)



◆「ドクターヘリ」の運行

「助かる命を助けるべく」、
県内のみならず「関西広域連合管内」をはじめ、
県域を越えて運行 平成24年10月～

・令和元年度の出動件数

481件

・H24.10～R2.3末までの出動件数

3,214件 (1日平均約1.2件)

◆「ホスピタルカー」の導入

医師等の医療スタッフが同乗し、
より安全・確実に患者の病院間搬送を行うため、
平成29年10月から導入

・令和元年度実績

79件 (迎え搬送3件, 送り搬送76件)

→ 令和2年11月より「ドクターカー」として
機能強化



医師の「確保」と「育成」

(資料2 p2)

◆臨床研修指導医の養成

高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成し、次の世代の研修医を育てる**医師育成サイクル**を構築

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値	備 考
臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	99名	120名	- 中央病院: 84名 - 三好病院: 13名 - 海部病院: 2名 (年度末実績)



臨床研修の充実

(資料2 p2)

◆初期・後期臨床研修医の育成

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値	備 考
初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	52名	55名	- 中央病院: 32名 - 三好病院: 12名 - 海部病院: 14名 (病院間の重複あり)

◆新築移転した海部病院内に「地域医療研究センター」を充実整備

(地域医療を担う「若手医師」の育成拠点)

- 令和元年度には、徳島大学医学部(5年生)の学外臨床実習として「約100名」を受入れ



スペシャリストの養成

(資料2 p3)

◆「専門・認定看護師」の計画的養成

令和2年5月現在の資格取得者数

- ・専門看護師 **3名** (がん看護、老人看護)
- ・認定看護師 **34名** (16分野) *今年度5名(4分野)が認定審査受験予定

*救急看護、感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、集中ケア、糖尿病看護、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、がん放射線療法、小児救急看護、脳卒中リハビリテーション、摂食・嚥下障害、認知症看護、手術看護、慢性呼吸器疾患看護、精神科

医師・看護師等の「勤務環境」の改善

(資料2 p3)

◆医師の負担軽減のため「医師事務作業補助者(医療秘書)」を充実

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値	備考
医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	40名	52名	50名	・中央病院: 33名 ・三好病院: 14名 ・海部病院: 5名

◆院内保育所(中央病院 やまもも保育園)の運営

- ・定員**80名**(うち徳大病院枠10名)
- ・年中無休(夜間保育を実施)



危機管理への対応力の強化

(資料2 p3)

◆徳島県災害医療訓練

- ・県立病院が参加し、**令和元年9月1日実施**

◆総合メディカルゾーン本部合同災害対策訓練

- ・中央病院・徳島大学病院合同で
令和元年10月5日実施(380名参加)
- ・大規模災害を想定した実動訓練の実施により、
メディカルゾーンにおける災害時医療体制を検証



◆DMATの育成

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値	備考
DMAT数 【県立3病院全体】	7チーム	9チーム	10チーム	・中央病院: 4チーム ・三好病院: 3チーム ・海部病院: 2チーム

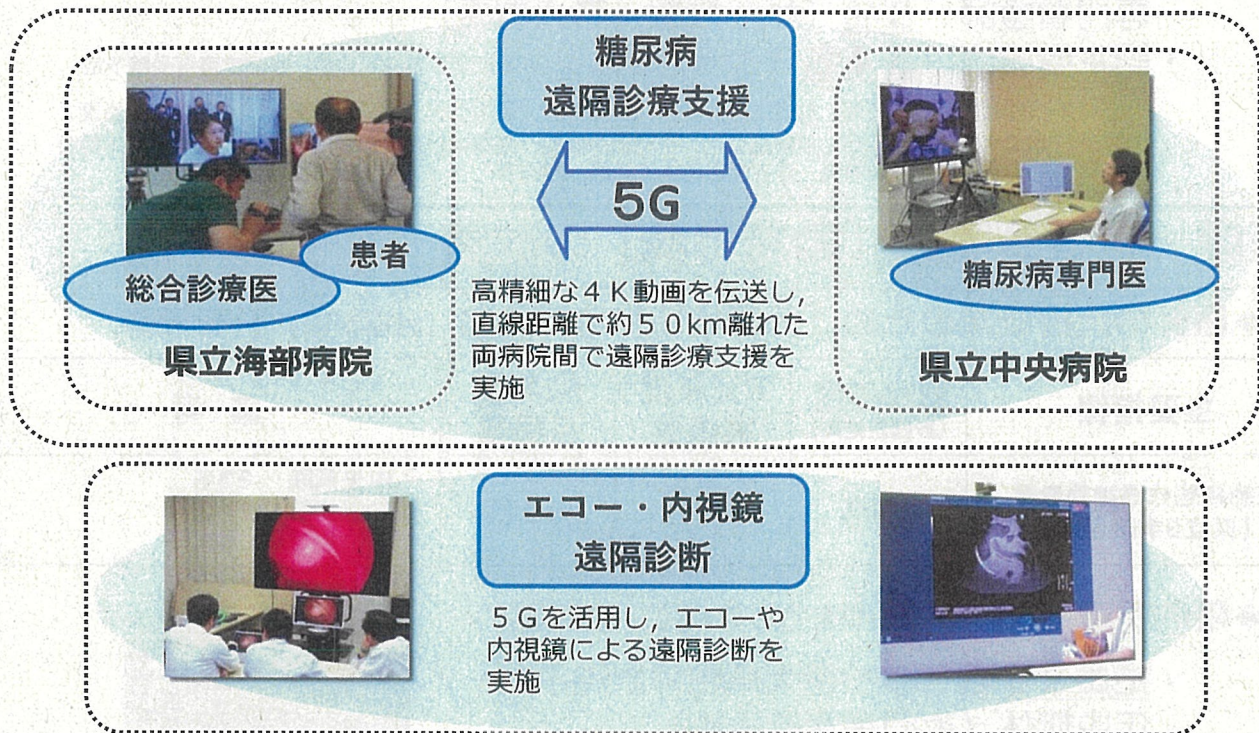
◆災害に備えたライフラインの確保

災害時における「水供給の多重化」と
平時における「水道料金の削減」を両立させるため、
三好病院において、**井水利用に係る施設整備**を推進

ICT（情報通信技術）の活用（資料2 p4）

◆ 5Gを活用した遠隔医療の実証実験の実施

- ・ **令和2年1月14日～2月14日に中央病院と海部病院を5G回線で接続し、実証実験を実施**



医療器械等の共同購入の推進（資料2 p4）

評価：努力

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値
医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869 品目	1,740品目	1,000 品目以下
医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	168 品目	227品目	250品目

今後の取組

「3病院は3つで1つ」のもと、それぞれの品目毎に採用数と費用対効果等を再検証し、「同種同効医薬品の統合」「診療材料の標準化」を推進する。

※令和元年度の県立3病院・徳島大学病院・鳴門病院との共同交渉効果

・医薬品 薬価ベースでの削減額 **4億200万円**

※令和元年度の中央病院・徳島大学病院との連携による472品目の共同交渉効果

・診療材料 年度換算で**約260万円**

2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

高度先進医療・臨床研究の充実

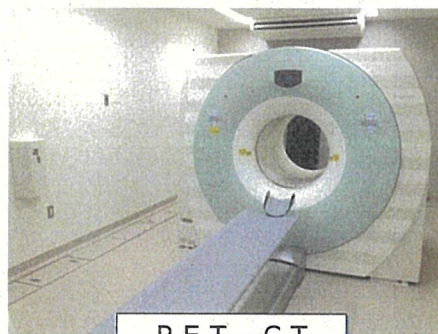
(資料2 p 5)

◆高度医療機器の整備による先進医療の提供

- ・中央病院では、リニアックやPET-CT、ダ・ヴィンチによる高精度な治療や検査を推進
- ・三好病院では、リニアックにより、質の高いがん治療を推進
- ・海部病院では、マルチスライスCTを導入



リニアック



PET-CT

地域医療連携の充実

(資料2 p 6)

◆紹介・逆紹介による連携の推進

中央病院では、

逆紹介率203%

(紹介率96%)と、

全国トップクラスであり、
着実に地域の医療機関との
役割分担を推進

主要指標		H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値
紹介率	中央病院	80%	96%	90%
	三好病院	40%	50%	60%
	海部病院	29%	19%	40%
逆紹介率	中央病院	139%	203%	180%
	三好病院	97%	83%	120%
	海部病院	33%	39%	40%

◆訪問看護・訪問診療の推進

海部病院では、

平成21年度から訪問診療・訪問看護を実施

- ・令和元年度実績

訪問診療 280件

訪問看護 657件



地域医療連携のさらなる充実に向けた新たな取組 (資料2 p7)

◆令和2年1月

公立・公的13病院の間における包括的な連携体制として

「徳島医療コンソーシアム推進協定書」締結

→ 各病院間の連携・協働を進化させ、医療を取り巻く様々な課題に即応

＜連携を図る公立・公的13病院＞

- ・徳島県立病院（中央病院・三好病院・海部病院）
- ・徳島大学病院
- ・徳島県鳴門病院
- ・三野病院
- ・上那賀病院
- ・美波病院
- ・海南病院
- ・半田病院
- ・徳島赤十字病院
- ・吉野川医療センター
- ・阿南医療センター

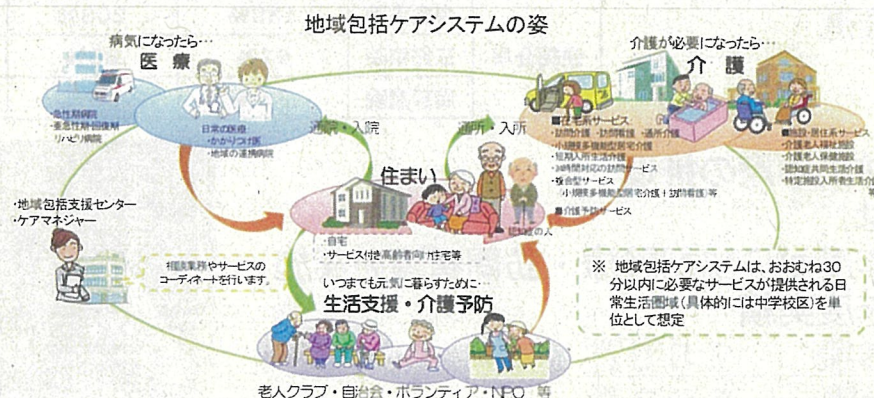


(資料2 p7)

◆令和元年7月

急性期医療を経過した患者の受入や、在宅復帰支援を推進するため、
海部病院の4階病棟（52床）による「地域包括ケア病棟」開始

- 急性期病院からの転院先として、患者やその家族の負担軽減につなげる
- 病状に応じた適切なリハビリテーションを実施し、在宅復帰・生活復帰を支援



厚生労働省HPより

精神科医療ニーズの高まりに対する対応

(資料2 p 8)

◆三好病院「院内デイケアさぎそう」開設

平成28年6月開設

・令和元年度実績

100回開催 延べ378人が参加

■ 参加対象

認知機能障がいやせん妄があり、
参加について主治医の許可がある患者など

■ 実施日時

毎週水・金曜日 14時から15時30分

■ 活動内容

認知機能訓練：お手玉、ぬりえ、
ちぎり絵、押し花等
身体機能訓練：輪投げ、ボール投げ
風船バレー、体操等



開かれた病院への取組

(資料2 p 8)

◆住民に支えられた病院としての取組

病院主催イベント等への住民参加等

・令和元年度実績

中央病院

□がん対策センター公開講座

「あなたの家に帰ろう」開催 **R2.2開催**

□オープンホスピタル **R1.9開催**

(高校生が病院の仕事を見学・体験)

三好病院

□県民公開講座

「脳と心臓の病気について」 **R元.11開催**

□生き活き講座 **5回**

(希望するテーマの講師を派遣)

□出前講座 **26回**

(病院スタッフが希望に応じ出前講義を実施)

海部病院

□経営戦略会議 地域住民との意見交換会

R元.10開催

□県民公開講座

「あなたの知らない糖尿病の世界」 **R元.11開催**

□糖尿病教室開催 **4回**



中央病院公開講座



三好病院公開講座



海部病院公開講座

3 「医療の質の向上」に向けた取組

チーム医療の推進

(資料2 p9)

- ◆高い専門性を有する「診療チーム」による的確な医療の提供
 - ・ 求められる医療需要に、的確かつ迅速に対応するため、
「緩和ケアチーム」「糖尿病チーム」「口腔ケアチーム」など
多職種による、チーム医療を推進
 - ・ チーム連携により、回復力・予防力の向上に貢献する
薬剤管理指導を実施

主要指標		H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値	備 考
薬剤管理 指導件数	中央病院	11,961件	16,633件	16,000件	
	三好病院	3,841件	2,644件	4,000件	
	海部病院	1,905件	1,045件	1,900件	

4 「経営の効率化」に向けた取組

急性期医療の重点化

(資料2 p12)

- ◆入院者数、日数の適正管理
急性期医療の重点化を図るため、**適正な平均在院日数と
病床利用率の管理**に取り組むとともに、
新規入院患者の受け入れを促進する。

主要指標		H26年度 (計画策定時)	R元年度 実績値	R2年度 目標値	説 明
平均在院 日数	中央病院	9.7日	9.8日	9.6日	精神病床を除く
	三好病院	16.1日	13.7日	13.5日	緩和ケア病床を除く
1日平均 新規入院 患者数	中央病院	30.9名	32.1名	33名	精神病床を除く
	三好病院	8.2名	9.2名	10名	緩和ケア病床を除く

後発医薬品の採用

(資料2 p14)

◆県立3病院で使用する後発医薬品の数量シェア

県立3病院では、後発医薬品の数量シェアが、
国が示す「令和2年9月までに80%以上」の目標を既に達成。

・令和元年度実績

中央病院 88.7% 三好病院 89.7% 海部病院 93.9%

◆外来処方における新たな取組

県内有数の外来処方数量を誇る県立病院として、
調剤薬局における処方数量の増加に向け、

「薬品名」ではなく、「成分名」で処方を行う
「一般名処方」を、

平成24年4月から実施している海部病院に続き、
平成29年11月から中央病院で、
平成29年12月から三好病院で実施

・令和2年3月現在 一般名処方品目数

中央病院	129品目
三好病院	85品目
海部病院	68品目

お薬は選べる時代。
だからこそ、ジェネリック医薬品。

2012年4月から、ジェネリック医薬品を更に身近にやすくするために
処方せんの記載が新しくなりました。
医師・薬剤師の先生と相談して、ジェネリック医薬品を選んでみましょう。
まずは、ご自分の処方せんを確認してみましょう！

新！処方せん
成分名
薬品の情報

「処方せん」に「DIAAALAN 50mg」
と記載があれば、ジェネリック
薬品も処方されます。

「DIAAALAN 50mg」
「DIOXIDIN 50mg」
「DIOXIDIN 100mg」
「DIOXIDIN 150mg」

「DIAAALAN 50mg」
「DIOXIDIN 50mg」
「DIOXIDIN 100mg」
「DIOXIDIN 150mg」

ジェネリック薬品
効果は同じ、
安く買えます！

詳しくは、医師・薬剤師にご相談ください。

ジェネリック薬品ってどんなお薬？

※成分（有効成分）と同じ有効成分で、効果・効能・安全性が同等な薬品です。
※剤形より形状が異なり、飲みやすさ、味、包装のデザインなどに違いがあります。
※ジェネリック薬品の効果は、同等品質の薬品に匹敵します。

医師：厚生労働省

JGA
ジェネリック医薬品の新しい情報はこちらのサイトへ
<http://www.jga.or.jp/>

徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について

1 進捗状況

施策数 (再掲を除く)	令和元年度の進捗状況		
	達成 ○	順調 ○	努力 △
32件	5件 (15.6%)	26件 (81.3%)	1件 (3.1%)

自己評価基準

- ・【達成：○ (取組目標を達成)】
- ・【順調：○ (令和2年度に取組目標を達成できる状況)】
- ・【努力：△ (令和2年度の目標達成には努力が必要)】

2 「経営基盤の強化策」の自己評価一覧

1 「グループ力の強化」に向けた取組					
(1) 広域的な救急医療支援体制の整備	◎	p. 2	(5) 医師、看護師等の勤務環境の改善・充実	◎	p. 3
(2) 医師の確保と指導医・専門医の養成	○	p. 2	(6) 危機管理への対応力の強化	○	p. 3
(3) 臨床研修の充実	○	p. 2	(7) ICT (情報通信技術) の活用	◎	p. 4
(4) スペシャリストの養成	○	p. 3	(8) 医療器械等の共同購入の推進	△	p. 4
2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組					
(1) 高度先進医療・臨床研究の充実	○	p. 5	(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	○	p. 7
(2) 地域医療連携の充実	○	p. 6	(6) 精神科医療ニーズの高まりに対する対応	○	p. 8
(3) ホスピタルカーの運行	◎	p. 7	(7) 住民に開かれた病院運営	○	p. 8
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	○	p. 7			
3 「医療の質の向上」に向けた取組					
(1) チーム医療の推進	○	p. 9	(5) 患者・職員の満足度の向上	○	p. 10
(2) 病院機能評価の継続受審	○	p. 9	(6) 患者さんの信頼を得る医療の推進	○	p. 10
(3) 医療安全対策の推進	○	p. 9	(7) 広報活動の充実	○	p. 10
(4) 院内感染対策の推進	○	p. 9	(8) 快適な病院利用環境の整備	○	p. 11
4 「経営の効率化」に向けた取組					
・収入確保の強化					
(1) 急性期医療の重点化	○	p. 12	(4) 未収金の発生防止と回収促進	○	p. 13
(2) DPC分析による経営戦略の策定	○	p. 12	(5) 医師の確保と指導医・専門医の育成 (再掲)	—	p. 2
(3) 診療報酬制度への戦略的な取組	○	p. 13			
・経費削減の強化と効率化の推進					
(1) 後発医薬品の採用	◎	p. 14	(4) 医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化	○	p. 14
(2) 医療器械等の共同購入の推進 (再掲)	—	p. 4	(5) 事務部門のスリム化と強化	○	p. 15
(3) 効率的な委託業務の推進	○	p. 14	(6) 病院資産の有効活用	○	p. 15

各施策の自己評価一覧表

1 「グループ力の強化」に向けた取組

経営計画の概要		【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価		
(1)	広域的な救急医療支援体制の整備							・ドクターヘリ (H26年度: 414件、R元年度: 481件、16.2%増加)、ホスピタルカー (平成29年7月より運行開始し、R元年度: 79件) の体制整備が整った。	◎ 達成	
	・ドクターヘリ、ホスピタルカーの活用									
(2)	医師の確保と指導医・専門医の養成							・臨床研修の質の向上のため、指導医養成講習会に参加し、令和元年度に、新たに9名が臨床研修指導医資格を取得した。 (中央病院8名、三好病院1名) ・臨床研修指導医数 (中央病院84名、三好病院13名、海部病院2名 ※年度末実績) ・「中央診療部門」の医師養成として、平成29年4月から、徳島大学・寄附講座「麻酔科診療部」を新設した。(中央病院・全身麻酔手術 (R元年度) 3,073件)	○ 順調	
	・県立病院間での効果的な人材活用 (医師のローテーション勤務)									
	・地域枠医師の積極的な受け入れ ・中央診療部門医師 (麻酔科医・放射線科医・病理医) の育成 ・新たな専門医制度への対応									
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値					
	○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	100名	99名 (△1名)	120名					
	臨床研修の充実					・臨床研修病院として、臨床研修医を52名受け入れて、臨床研修の充実を図った。				
(3)	・特色ある後期研修の実施 ・海部病院の「地域医療研究センター」の整備					・平成30年4月開始の「新専門医制度 (19診療科)」への対応状況 「新専門医プログラム」 中央病院: 17診療科 (基幹施設・連携施設) 三好病院: 10診療科 (連携施設) 海部病院: 5診療科 (基幹施設・連携施設) ・海部病院は、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」の整備を行った。 (徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部5年生が実習を実施。R元年度: 約100名)				○ 順調